

ふたばの農業通信

再刊 第9号

令和6年7月1日発行

相双農林事務所双葉農業普及所 〒979-1111 双葉郡富岡町小浜 481 番地 TEL (0240)23-6472
E-mail hutaba.af06@pref.fukushima.lg.jp FAX (0240)22-2560

放射性物質吸収抑制対策を徹底しましょう

カリウムと放射性物質であるセシウムは化学的な性質が似ているため、土壤中の交換性カリウムが不足すると、作物はセシウムを吸収してしまいます。カリ肥料を十分に施肥し、土壤中の交換性カリウム含量を一定水準以上に保つことで、放射性セシウムの吸収を抑制することができます。

品目	交換性カリウム含量 (目標値)
水稻・大豆	25 mg/100 g 乾土
そば	30 mg/100 g 乾土
大豆※ ¹ ・そば※ ¹	50 mg/100 g 乾土
牧草	30~40 mg/100 g 乾土

※1 大豆・そば：原発事故後初めて作付けするほ場で栽培する場合

土埃や落ち葉は放射性セシウム含量が高い可能性があるため、作物への混入にご注意ください。

緊急時モニタリング検査を実施しています

食用として出荷・販売（譲渡を含む）される下記の品目及び牧草・飼料作物については、放射性物質のモニタリング検査を実施しています。品目や地域によって、検査点数や検査対象地域に細かい決まりがあります。検査が終了し、安全性が確認公表されるまでは出荷・販売・利用することは原則としてできませんので、生産者の皆様におかれましては検査に御協力をお願いいたします。

- ・ 水稻
- ・ 穀類・雑穀（大豆、そば、麦類など）
- ・ 野菜（ブロッコリー、キャベツ、さつまいも、タマネギなど）
- ・ 栽培された山菜（ウド、フキなど）
- ・ 果樹（ウメ、ユズ、ブルーベリー、ブドウなど）
- ・ 牧草・飼料作物（永年生牧草、飼料用とうもろこし・稲 WCS など）

※山菜・きのこについては、富岡林業指導所で実施

詳しい内容やモニタリング検査のご要望などは、町村農政担当係または当事務所までご相談ください。



スマート農業の普及推進を図っています

福島県では「スマート農業社会実装推進事業」として、令和5年度時点で18課題21ヶ所の実証ほを設置しています。当所では、令和3年度より水稻、タマネギ、トルコギキョウ、ブドウにおいて4課題5ヶ所の実証ほを設置し、技術の普及を図っています。

○水稻『プラウ耕・グレーンドリル播種体系による乾田直播栽培』

水稻では、育苗や代かき作業の省力化、作期分散に効果がある乾田直播のうち、大型の畑作物機械を利用するプラウ耕・グレーンドリル播種体系による乾田直播栽培の実証に取り組んでいます。これまでの実証では、育苗や代かきの春作業の省力化、コスト・労力削減が図られました。

4年目の本年は、収量確保に向け、冬季の代かきを実施して漏水対策の実証を行います。保水性の悪いほ場でも取り組める体系を実証し、地域内での取組拡大につなげます。



乾田播種の様子

○タマネギ『タマネギの直播栽培による省力化（直播技術の確立）』

野菜では、育苗作業が不要となるタマネギ直播栽培の実証に取り組んでいます。

当実証では、タマネギの直播栽培を導入することで省力化を図り、双葉地域におけるタマネギの作付面積を拡大させることを目指しています。

令和5年度までの実証では、直播栽培は移植栽培と比較して作業時間が約39%（38時間/10a）削減できることを明らかにしました。

しかしながら、初期雑草防除及び発芽率に課題が残っており、当実証を通して直播技術の確立を図ることで双葉地域をタマネギの一大産地とすべく今後も取り組んで参ります。



タマネギほ場（左：移植栽培、右：直播栽培）；（4月19日撮影）

○トルコギキョウ『トルコギキョウを核とした花きの周年生産』

花きでは、トルコギキョウの作型適応苗（一定の温度・日長条件で追加の育苗処理を行う技術）の実証に取り組んでいます。

令和5年度までの3年間は東京市場及びいわき市場へ出荷を行う生産者とともに実証を行いましたが、期待される切り花品質の向上効果はあまり確認できませんでした。4年目の本年は、主に直売所に出荷する生産者にご協力いただき、直売所向けの短めの切り花を9月彼岸に出荷する作型に挑戦します。

9月彼岸作型は定植直後から高温期であることから非常に難しい作型であり、当実証の成功は管内トルコギキョウの生産発展につながります。ご期待ください。



トルコギキョウ苗（左：作型適応苗、右：慣行苗）

○ブドウ『ブドウの根圏制御栽培等における早期成園化と省力化』

果樹では川内村でブドウの「盛土式根圏制御栽培法」の実証を行っています。

この手法は、遮根シートの上に盛土をつかって苗木を定植し、土壌中の水分を調整しながら栽培するものです。根の張る領域を制御することで樹の勢いを制限し、自動かん水装置で水分量をコントロールすることで、定植してから2年目で品質が安定した果実の収穫が可能となります。

定植後4～6年目の「シャインマスカット」では平均1,000kg/10aを超える収穫量が得られ、今後も同程度の収穫量が見込めます。

近年は、夏期の高温により葉焼け等が発生するなど、異常気象対策といった課題が出てきています。このような課題解決を検討しながら、引き続き実証を続けて参ります。



根圏制御栽培（左：栽培の様子、右：収穫直前のシャインマスカット）

安心・安全な農作業を実践しましょう

双葉地域では、昨年度、農業機械作業中の事故及び熱中症による死亡事故が計2件発生してしまいました。福島県内では今年度に入りすでにトラクターからの転落事故が3件発生しており、うち1件は死亡事故となっています。普段は何事もなくできている作業でも、「今回だけ」と危険な行動をとったことが事故につながった事例が過去にも多く挙がっています。安全確認を徹底して行いましょう。

また5～9月は熱中症対策強化期間となっています。今年も昨年同様の猛暑が予想されています。炎天下での作業を避け、こまめな水分・塩分補給を行いましょ



福島県農林水産部公式 YouTube チャンネルで動画公開中！

県内各地の農林水産部職員が様々な動画を作成しています。

PCからは「1400 のネタばらし」で検索、スマートフォン・タブレットからは右のQRコードからアクセスできます。是非ご覧ください。



新体制を紹介します！

令和6年度の双葉農業普及所は、転入者7名(■)、新規採用職員1名(★)を含めた15名で普及活動に取り組んでおります。これからも地域農業者の皆様のお力になれるよう職員一丸となって尽力して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

所長	■ 熊谷 有子 (畜産)
次長兼地域農業推進課長	■ 古和田 壘 (作物)
	■ 緑川 千佳恵 (作物)
	★ 宮崎 美沙 (畜産)
経営支援課長	■ 木村 秀樹 (有機農業)
	■ 滝田 雄基 (果樹)
	■ 安田 貴則 (花き)
	■ 半沢 拓巳 (野菜特産)
	■ 根本 高志 (野菜特産)
町村専任担当	■ 寺田 俊介 (葛尾村)
	■ 佐々木 理人 (富岡町)
	■ 石川 涼平 (浪江町)